西洋道中膝栗毛

十編 下

へ14
1260

門へ 184
雑 1260
巻 20

西洋道中膝栗毛拾編下

假名垣魯文 戲著

東京

浜添の馬車落ホ怪我人の弥次郎北八医師シヤボンの治療ホよりて不日手疵痛所も全くホ癒ーかせ

岡地の名所回添をあらためて見物せんと側の通ひ郎芸倍ホ代殺ハ一匹の駱駝をやとひて合鞍ホ三人等しく

打乗うて前ホ弟ホ弟ーたり〜回教マホメツト宗の巨寺ホ到り

境内を遊覧せるホ英蘭壮観目を驚かせり日英人

モテルある若後より来る衍来あるゆゑ家之人い門前ゆゑ
駱駝をひり寺中ゑ入り彼処此処と足巡りあるら通
ナントどうだ工夫石いこン赤埴石ダヨ細川林齋ヤ益田
遇所の先生達ゑ見せるこ滅をあゞ生だらう孫印
刻坪ゑかりゑやアねへ石牛一庭仙壽堂神翁金齋
あんぞゑ入ら入歯の種ゆ来るがるゼトたゑーあゞら堂へ
余丈ゑかりの大伽藍ゑ堂内ゑらうゑゆきあゞなるゆゆうの
ありのあり天井ゑハ金ゑくをいろどりヤタいろゑゑをひれそ
ゑ上のゑるのゑハ北通さんこゑあせへ山図ゑも天人が居と

足へくアノ柱ゑ彫つけくあるがちんだの抵灯いよもや
納まるめへ通まこ筆ゑをいのゑ浅草の観音ゑやア有
めへしたこありやア天人ゑやアねへアマゾンとらゑこの家
門の帰人が屋室を飛図だヨ北それゑやアその女い七
夕の織女が就類ろ通エこどうでもそんゑこといゑやア
ねへう若ゑたゑーこ咲かせたって一朝一夕ゆやア決りやア
表孫へ孫ハ小影して決るのハ桃を部が鬼が酒呑ろう
雀ゑ花咲爺ヨ北よくおめへッちハゑをゑかゑ生るが

知らぬ神へうら砲のゞ吹い一時のもぢきうぬい万代の若
賀い是未代のたゝら耳ゆきれバ考ふこまこぜとう
寒の敷ゆもあるとゆう物を吹イて耳ゆ入れりゃア智
恵のたゝらタ通「アハ〳〵〳〵仏ごうことぶらかッく沢からね
ね引きを並べるぜ　弥「采方者きゞ板ゆ泥ふうとぜゞ
吹イて仏のきまらうそ〳〵く宮の教とい仏のことダおらア
実宿敷い吹イたゞ実の敷いはゞめてる　北「エのても宿
でもちつとの召遠へゞそんあることゆうんぢゃ〳〵もる祥ッ

ゑのちらせくゆきんぢゃアねへ後い大海ダ　弥「見い節
宮耳ゆきてうらげう通「ヨットまたゞまッた例の空像
いてうらぶ〳〵ゆうと〳〵回廊を巡ると志やせうトだんく
かうゆもそくまうらうかをのやりゆくゆきぶい堂のごとくたうどのよう
カイロのまちとながゆもバ一ト目ゆうふうたいうふうはいあゞけるゞどし
弥「廊ゆ脇屋を志ゞ志ゞあゞめて石筆をとりあへぞ
回敷の寺から里を見ようせゞ
カイロとゆふ山ゆうだゆな〜
ゆハるロから出まうせ前ゆ弥「廊とあらそひうる

空海ホ初ヒヨリテ彩よあるる

外関もいとゝ日の稼のむざいい

カイロの寺へ行かけの論

北「トキニ弥次さんあらア日本を出ることに相ッてきて物ずあるぶさうたり志もて」弥「あんざ」北「イヤサ東京の千社連千社納札とて神仏の社堂に題名の札をたりあく案を云富。位長若をあんでその牌を外國に渡ッて寺や堂ぶ在ッたらやたらに張ッてくらもとよこ〜たがこらく

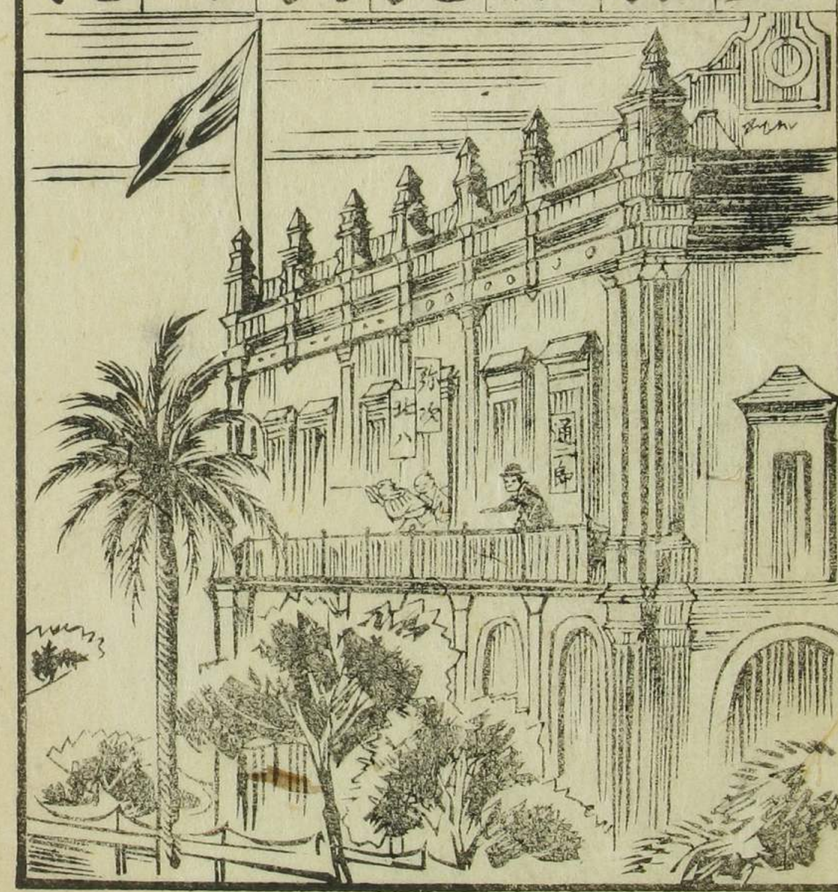
四五枚張ッてくゆらうか通「ヨヤ千社参りぶ来よ流行せるのかな」弥「あホサ流行とらのるどでも稼へぶ来ホおやア清茶の丸所に通頂ホ来れ若をとらの清合茶亭で納れ札交易の舎ぶあるとうサ通「全体納れい支那の韓退之ぶ右事から起ッて我朝ぶやア百年ぶかり以前天愚孔平とらの儒者ぶもじめることだらちん

ざらち堀のねくことでもねへぶ近ッたのる社参りい信心いそッち除で学義学祇のらせホ納れぶ奮発して

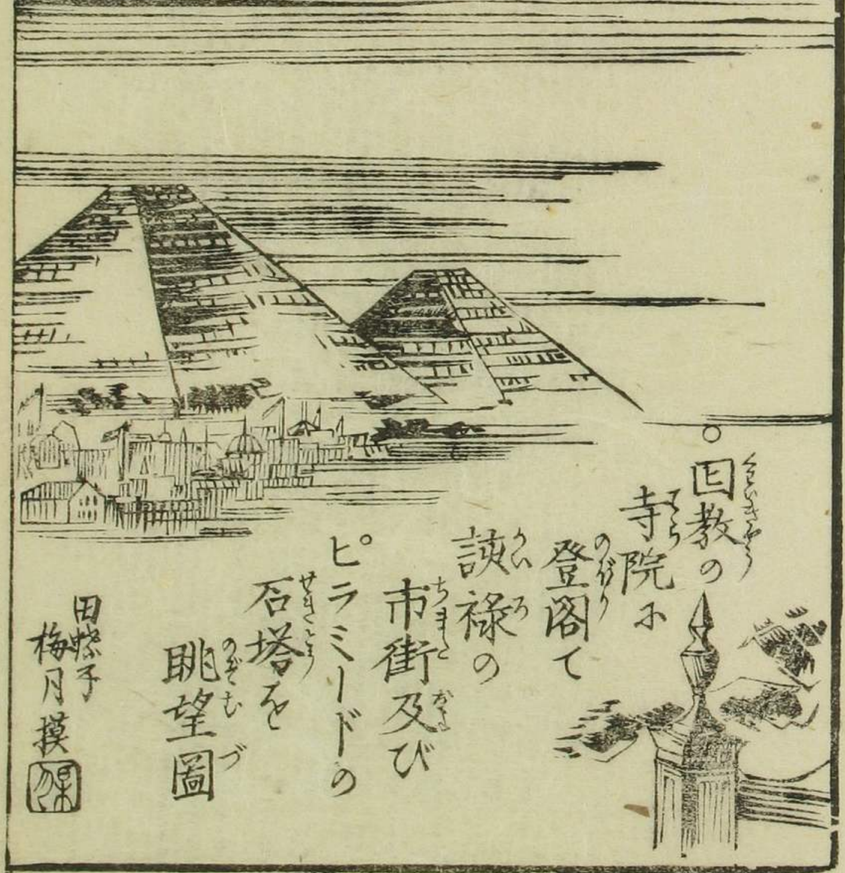
仏組の仏果とる他ハ知らるのを参ハるからあハ
笑ひダ　弥　北八あんぞもその組サ横濱出國港の時分ハ
めく夷人館ガ建ッたら寺院とる遠へく白塗の塀
へれを張ッくとんざめハあとろだッるヨ　北ヲット
弥ひさん他のことハいらまねへせバイ海あめくと一組ゆ
府中武蔵の大祭礼を見物あぐら六社に系信しくとた
額堂の天井へつあぐ揮の頭に筆をとし迎とで落出を
しくある組を社家ハえつってふン拵まッた上ハふんぐ

膏を絞らまたぢゃア拵へろ　弥　そうヨあのときゃアハ
んのお来ハぐてめくがふり出しあぐのを持ッてゐる
からハつくえるのだが天井を洗いさまたのハダレ迎ン
だぜ　北　カウく変ハあめくとあまの同行二人とハ陣
ざたのるから外國に来る陸ハ堂へ張ッくいるうカ通
ドレくどんゐ按排ハ書イてあるこ一すえせめくト北八ガ
ようとろぐまを納礼を　ナニ亞細亞洲大日本國ト云く弥ひ郎
多ハとうあげくまこやり
北八合牌ハ紙ガあんざろ戒名めくいる子ヲヤすだ

田てう
神田馬具屋
左松
西多見
かめ泰
岡崎屋
えぎさん



田キサ
西かん
大間富
ゑいの手
丹長
ぶー幾
かるこぎ
ろ文



回教の
寺院ホ
登閣て
読禄の
市街及び
ピラミードの
石塔を
眺望圖

田松子
梅月摸

穢くる牌を仕廻ふべきさぜ 北番附納牌業おやア
三好町の因縁ゆかりの孫金作 梅素玄魚が浮き
だつるが近道 北玄老ハ近年の傭書師ゞ書更とりゆ昔用だろ
ら年中札のまつりを元者かきく千社札ゑんぞを
書イてくゐるひまいありやア志孫ハ トいつるがらあのまと泳ぎ
たくらへくるアラビヤゴムゆく賞の巳らへたろくくゐるところへは書
の門戸をまゐる元率ゴまつりのなめ巳ゑ人うちまこくゆきくて北ハ
ゞゐゆやられをもりゐくるをとえろはけぎたりてやゆいゆひッ
とらへ例のゆからぬことぞゆくまれちらせゞ泳ぎ那通ぎ那ハあハて

あどろ死ろくくまりるをと元率当ハこまをるひひとらへてまどう更
どりまつりの表所すでひ死くそゆ中ゆ三人のりのハ言ゆたぎ巳のる方
ゆそハぞめゆどをたどるこもちゆくゆくゆくひこのところをゆふるの元
率ハこまトルコの附屋ゆく土人なりゆ地ところくをゆふるの元
くゆまるどもたびくくの書華ゆくゆくひらけをこ変ひくるへんくの年風
あるゆるひとこりのいるけゆそいるくくころらぞまでゆ政府へゆ巳
てゆるてゆゆゆぞ死ゆひゆ巳ゆこくゆいゆるこくちゆるく
ひこちぐこゆゆくくるくちりからゆ表所よりのゆらせゆようゆ旅宿
ゆ渉りたる大腹屋廣義ゞ名代人とあり英人モテル
ひ那ゆ茶りゆ岳率ゆるゆきゆゆぐくと滝巳くこ三人を引
とり門外ゆ出るをり孫ゆ那北ハいまゆ墨縄くく
張札の社用ゆ業を仕る科の

知もきッたことだらう物をからゐ社れなんぞを
持ッて来るのゞ不学とゆふのんダてんゞ達のことで
他ゆ遅慢をかるゐゞら不足がゆ〜イことをぬうもを
ゐエ北ゐんゞことゆへゞ通辞めひ方ゞ西学文盲だ
から通さんゞとろ蛮雫だとろ量敬くかきゃアいゝ先
生のつらひアさ〜チイ〜。ハア〜かん〜のウきうのまを
の蕃人の療言をゐゞ通希ゐ小便もあるめの
ろ自己アこをから藤ゆく帰ッく日本へ送ッてのら

ハアうゆらゆ怪落ゞいるのゝ通ひ奴ゐ大測ゆねろ
をふひ出ゞゐ野蕃去人のぶんぎのゞ文明軍化
の甚物ゆ対ッて考敬きいまる過去を吐イるから
ゆゆアをのぶんぎゆアかうもぬぞ「コレサ〜通さん
マア〜猿も立とうゞ去ゞうゆ去ゐせくコレゆハどうし
たもンダ不常厄介ゆどろうゐッくゐる通さんゆむ
かうくをとゐく猫人是ゆ家でも違やア去猫くゐ
去ゞうゆ云ッてもをを〜やア伏らア十方も猫くとん

ちゃだ　北ヨヤ孫こさんかめくま
ぢッノ彩毋ちいろ留ダエ〻カウ
祖父の代ろこ代〻ぐいろく孫
丹ホ唐獅子竹ホ虎桐ホ風
そ物へ中ハえ物ゲ虫刺
ろの代ぢ怒ゑ〻ぢッる若の
るのハあんのこッることんちの
馬へのせさやうのちあらッち

ことゑ〻かぶ九十八表表の
藝とハくることとう出ろう へ〻シ孫
辞ホかろう胡麻を虫ゆやアが
工食ーつけ孫へぶどう酒ホ酔
あきやアさゑぐ〻ゑへどをつく
ーてこうまとう　ト孫ハ部ハあゑ九ゆせた
ゆゑつ〻ホ右のゑゆそた
とゑるゑどゑハも一ゆゑきけん孫ハ部のハ
ゑゑゑ〻ゑんぜゑぐまろゑーまゑ
らまぶどモテルとふろうゑ〻ゑんを
二タとところホこどろう〻モテルハゑハをゆ
ペケ〻ゑるどるんろんまこ

貴著の西洋
滕栗毛
放
里を
出る
評判
の駿
弥次
利か
きる
道を
ふらやが
催促う
ふらの
通次
うちを
せんう
よ幾

足ゆーて
筆頭の曲馬ハ
佛国のスリ
北八
エを欺き滑稽本
の魁首と
称するも他の尾馬
い來ら
ざるべー
モテル
風狂子

人まことやくまゝいあります　北「あゆようごぜへまを
ゑ捨ッてくおきゐせへ　通「ゑと合保してゐろ
ちをゆまを　こ志ゆう　板だらうサア日本人の北
ハダどうでも志くえろびくくとも志るのおやアねへ
い工トもせろゆうまをこちらせごこゐるゆて　通「コレサ〳〵　弥次
通「弥次郎　弥次を志ゆりゆるぐゐるぐら
きんかとより　鶏ゆこ　猫の　縄ゆ　附とゆうなるおやア
弥へろ先　利い怒ッてえる　彼奴　余程　熟醟こゐる
かゝら　合いねへのサハテサ　牡人　牡人だし

るゲがまんせべゝ　弥「ゐゆろちゆどうでも彼奴と
の中だゝらようごぜへまをがあへさんゆ射ゝて　犬の
毒だゝら　彼奴の　赤羊　ゆを　かゆ　ゝる　廉　タ
志　似ゝ　ゝ　面目　志ゝ　通「ヲウト　る
遠へゝ　附の　ごこゝ　ゲ　ゝ　ゆ　ゝ　洗
ッたゆうゆさろゆとありやゝ　僧ゆ　ゝ
志ゝゆるべゝ　弥次郎の　ハの　ゝ　「牧ゆさん　先
利い　僧も　ゆ　の　居紙の　悪イ　附　ゝとんだことの

ゆたちばけ〳〵から若ゆも思ひを起させるぐ波濤万
里を越さく印図の旅を同行するのいよ〳〵嬉イ
同郷ぐとかんぐくりやアあるぐひゆどんあことぐ亞ウ
とも後も立ゆ〳〵ぐやアねへう金仲僧ぐひらけねく
から列の車仲を引出〳〵たのぐからそこい平ゆ
羅を附〳〵やも附てい徐ぐさんとまとまでの逆す
水魚の交際を弟ふモシ五快を舎ぐ〳〵人迎
の人力東ぐやア後へぐたのこまち〳〵ト折まてらいもて
ゆハハゆとう

いちじのこまたやからあこりしとゆあるをかれ〳〵北
あゆたふらくこいりてらまさらくかのうちれゆく〳〵通さん
あゆくふそうトからゆらもちやアあらアあ宮くぐも
遣へくいまとおっちやアあ面目ゆを嚇つぶ〳〵やも
どうも私やア行ったゆぐちの女人性うもしのこと
ふかんあや〳〵ゆぐ滑こうけへっく目のこりゆをひツ
こうけもこく人をこゆふとうたくおッたりまるのグ
病へサそのくせ生授ゆいい住病ぐ平常いちうこと
のことぐあるときんゆぐ上ッたりトッたりまるグイザと

のと親玉根生ぶ出ぜんを煮ぶ
る事ゆるからこすりを通
こと出あーて出かさりゆ
はとも和を跡揚ぶやアル
根中歩ろうときゆうけや
かこまとかたあげきをにろ
ハ西洋料理ともあげけぐたちや
ゆけ食蓋のきりゆるあらべ
通ひ部とモテルい弥ひ部わハ
こくくとあるのりのよ和こと
かひまとのどろんけんゆくこま

もとッてあせ
そうあめくぶ
の清水ダ酒
和くそこらで
をモテルゆものこ
ハのこだまこる
京都でひ
ゆまわにうち
をのちまこのゆ
とりかいきせチヨ
けのきりるゆまる
そろくまびゆ

のどうちたくた　そこの唐イのい根ホもなろチが
いい刺らもとねヒヨコくヒよこまのと
もちろイくトキニ親方大系屋ひろ義いい
くあゆをきてゆるだらう和ぶかりかん
ともあらッちとりろきゆぶんくでも
根者親方とのもいあ者をとッて二十
どうでこもと北根加い小四系お惜ぶかり
がらう通ひきイのぶ一根きげんく

得をの太イ
ヒヨイ弥アくくく
まどろ縁者
ぶげくくゆぶ
るがい通
雲上方い
くくくゆる
幅地理和

西洋膝栗毛餘奥

英通次郎

うい
ろう
夢の
せりゆ

作者　假名垣魯文述

一蕙齋芳載筆

せん生直傳のういらう夢の世りゆ
やせう絲〔そうやア〕ぬく〔北〕〔うのやゆ山術〕
屋（徳川家侍医の格式）の〔通〕〔イヤをこゝろ〕
いおぞうろねんぐまつ東西〔弥〕〔こびれ達の〕
雪隱ろ〔通〕〔またまぜるヨ〕〔北〕〔ポウシ〕
ゆうく椅子をせをに唐扇を〔東西〕〔通ひ郎〕〔をかふり洋服の〕
ふゆり十めつうて似ぬういろ
のかんぎりそう

せうふ鉄車船方と中スいかゝ奈合の中ゆも先達つゝ
航海のお方もどぎりゆせう東都を出たゝ一万と
二千余里西の方洋洲海系印度海をあまたゞあさ
きゝく紅海を見へお出あさるもゞ地中海ぶりれゆや
悠暑名所今ハ開拓いゝ初ちゝ英吉利とのあシ
ゆたる隣境より大海出ぐおゆ入りゆ出るい
ひ十字國方今ハ國統の印世界ゆ
びゝぎゆ英語ぎゆとどぎりゝイヤ慕丸せんの

風紀の石崖の崖儀のと方ゝゆ使節をらぐゝ
あるひい交際互市交易あどゝひ
シ横文字をのつくひろゆ英
ろゝの名をヤ
おあゆ合の中ゆもおろおやうあり
國ぐかりゆゝや
ろ又い支那へ出海の形ゝらかゝ
かゝ漂流あさる
ゝぐお出より
ヤさりゆせうゆのりあらゞ西の海
ありりあらゞ
東よりハウスゆハ十の字の旗印をゝ
ゝ出ゝ岳畠く
ゝいゆぐどぎるイヤさのぜんより國
の功名ぐかり

やてもゆかぬ方ゆい唐人の寐言ちんぷん漢語
さらば一應說ねてその理合をお耳ゆ入をませう
先ず日本の風俗を後日へおきめまきるとイヤどうも
ひくめい富國強兵土地が豊饒ゆ多いくらると智
慧のまること藝事車がえびこぐ逃るひとりと智
恵が廻り出ると古地ゆ饒もわからぬ者やそりや
くそりやくちるも者もまりくるいまいくく
きたい。エービー。スイー。デイー。イー。清濁の二ツの唇の

猩重閥口さいゆゆ。エプジー。エイッチ。アイ。ゼイ。ケイ。
エル。エム エン。オー。ぴぴんあらやアるんろ。一ろく
どんろくちるえそもの。かけろふゆどろんけん。あ
ちやさんのちやん〳〵湯を南京茶のあがと天竺
茶の多がと。パンの小麥の。パンあるがと。猪ゆエイス。
殺種異人。砂も貿幣ドル貿幣。紙猪幣ゆドル
貿幣。どるくるくいの紙ちよいい。紙ちよいい。どるくると
へい。ぷろいもの。ぷりてもたんとおめりかのかるゆや。

パナマの諸ゑんも花ぎそん。苦和政治いひるぎゆや。
ちやぶく〜てらぶるきつぷやく。臺。花盛頓とん。諸頓
どん。海溪とかるらんぷ場。オウライ〜ミオウライ
ゆ。六ぶらい。ぷすのゆんぷ。海ゆかけつまづきやるゆ。ふ
らんとかわきんとる。ゆらんぐゆもちらんぐ。ゆ茶たち
よゆ茶たちよゆアぶくゆたつた誓イたつた 弥 ゆ八たやりゆ 弥
ゆどまいつたゆひきげん 弥 大山石ゆる大昭和 北 大日
大小ふぐうゆる 弥 ら暦やとぢごよゆ 北 六ゆん

せうぐ〜海の寒 通 ちりからく〜ツくたつぷ 弥 蘭か
らく〜面洛地 北 ビイブイ〜ブブウブウ ひゆ比ゆ
だらをトン〜とんトうちたたれたまひつをどうつるひまらまびちやぶや
のゆぐ〜比うひい比ゆのゆどいゆつけゆとらもけんぶつ世がゆひくゆ
ぶぐ〜をどうつるゆとをそくうつるをそんどらるをとひくゆるどと
とるゆ二三人もをたりて通 弥 ゆ八のを人をらぐれ三人
いひもうゆをうるひゆをるぐとのやのゆのゆせいをとらゆうゆもちらぐをとい
さらぐん 北 リスのを士がゆたりびとををうまりうらんだうゆのとゆるひ
ちぐひゆからゆとらんとをるゆとをとをとらるをとをとむぐ〜さるゆ〜るもモテ
ルいゆぐ〜へゆア〜やらんとゆるうをとをらまぐるもゆかをいをとらゆゆバゆうをを比て
ゆげゆぐをスといくゆくさゆゆどを人がひとうをちらゆく〜分をとゆぐたがたと
ゆ〜をとのぐを比〜くゆのをのくるスとびゆぐ比をるもをかををとゆげゆく〜を
ちやぶやのゆどもゆぐどうたいうう
まうらをんぐうゆと比〜ゆげを比〜うゆうスゆをひゆゆげよゆどゆひゆけをれるゆふを人い
ゆ〜ゆをちのびて産業ゆらぐ

やとりたるそこなどやゆたら
ヨロかるくひろぐ〳〵ひろぐ〳〵
つたえのつのゆるめしつひ
郎と北八がかこのけぐまま
あるぐ〳〵そいふくなぞもの
どもをろちぐろしたるかと
ゆ江ぐやかろのあの
桐ゆゆうれちゆアかく
僕もあまり出りいか
の石階を見物ちろ
おろいらぐ〳〵又物

恵のズイ降り道
サひろ〳〵おろく道の寿偽
だろら腹ゲ病めく〳〵
い光のもぐつるゆど
ちまつサトも他のあ
たるふ商売やゲ〳〵モシ旦那
入押くゆく番家の
まちから三ゆを

弥次
鬼
松前や
踊る
指るも
ちがうと
せい

通次
北八
一蕙斎芳幾

まぜんぐあるまくの分ハ海ツくあるヨ和人ガあらの食
后へ来くく飯食ヒくきんぐきるぐたちヒる揚句ハ
迎あくく来まッたら一番とぐけくあのて官府へ行
へて出ると強勢やうほくくいハゆうぐどぐいまもセト
ハ此邪ハ人のかまを来る日ぐるハあらびハ通ぐ邪ハ
さそうとギックリむ和ハこぎひろぐうハそもときろくく
く日本人へかう合あらを合をいあわるあめくたちだ
らう邪時のヨりイ食ハあげヒるんぐそこいまちやア
牧ハ人報句ぐあら和くせヲイ通さんあめくぐ謝イてね

あぐら和をあてきるのぐヨ藤者くめうろくをかけるのこ
あらぐ役所ハはハぐもありやア出帆ガできやア去ねく
トたひくのこと面あるかたハかなりてきめつけるハ
三人いもんぐくあくハうけもあるこあさこをちくしてたぶひハあるまをを見
あぐ和ら　十二　新方あくくく食ハあげあんぐをを去ることけぐやア
ぐせくせん。せんてくとりやア通さんぐらハらう書のせり
ハから報ッた一件ぐ通ヨイくく和ハさん僕ハぐあり
罪をかぶせるのいうらこだせたとく僕ハ邪部のせり
ふをつら和やうとるケの慮ハ柔て願ふたのハあめくサ

踊りだ〜たのいかさんダ北ヨツトお洞のちろろおらら
い弥次さんふ附合て食机の縁をヒざたらこだろり
弥ヤイ〜わハ今さらてあくひとり舐るふあらうとるッ
てもそういろねくぞ寄物寺院ぐ千社札を張ッた
のいてめくだやアねくう事のおこりいあの件からダ北
あんのく張れのるい別にダあんぐもらひよろく
踊り出ーたのいあめくごヨ弥イヤてめくるトたろひいむ
ヒけグるからねのえひろ　コレサ〜あめくがるい仏をるから
さろいはまたちくだまこと

ねくことを事ふのごュウ通さんマア仏いはおのく食
わいだとのいまる新云いどうのふるけぐろえ色るせく
うのろう書のせうふだの踊り出ーたのトかめく達の邪
國の狐ゆでもつまれたのう気をたーかふりて使を通
一ま区あせくとんちきごとんちに化ふれりやアけよの新
関ハありやア志極く弥次わハかるぐ〜あり考るをのぐろまろ
たくボリスホとりあさくらるくことてふいてあどろに化ちらひもまるせまちや
ふやをあげど〜かうきゆえかのこきゆていうひあげよトところくたうけく
かけあひふきたりしるらんとのさのを考てひろごろいまのごのことあえたら
いたてともせをの〜ま花のせんうるるく通る所をのてやとやのあるトーふ

[illegible]のあまつをとゐふを[illegible]かのちやぶくのかんじやうをとのやうさえ
かえをちらいせやうゝふことをさたりとのをとりモテルいかゝりきたりて三人ゐ
あひのゝやうやうゐれらいそこのとたちのあゐやら[illegible]ることいろゝうゐ
ゐかゝうをきてそもゐもろゝあたゐあわゐゐるゐをゐかゝ
るさゝりをのてたゝるいをのゐ荷を唐蔵ゐ貢尾さん
どゝせんもんゐりといゝり形七三個いゐ
ゝあれバそのゐいをゝゝ郭ゐ[illegible]たゐのゐ始末
を縁掛借りゐさゐたゐゝらゐ弥に郭
郭のせり船のゐいゐとゝさいひや
えをたゝせバ吉の根田いゝら
きゝゐさんゝゝ行い拙者親方の

北八ゐ郭寄吟て果い知ひを借ゝゐその修繕り
ゐつたゝるゐいびたの音ゐ更ゐる夜のゐるゝらゝて
出帆の砲撃一発暁の夢ゐ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
朝飯をゐゝゝ当地より一回蕃気車ゐうち蒸亜歴
散天の地ゐ着ゝぬひ地い古たゐ国ゐして鎖ゐ首府ゐ
きびゐゐたゐ器物ゐゐと皆土中より掘出せるを熟敷稀
ありて頗る奇と称するに足きりとす

叱言八百やうもゝ行ゐ

謂て云続稀のピラミードハ世界有名の大墳ハ
して石を三角ハ積上たり元高サ六十丈許り
市中第一の奇観とのくり海辺部ハ八通辺部
の三個彼如何ぞも見物まべかりしをカイロのまち
ぎるハ遠沢うて疲ハ入りしろ遊覧を得ざ僕が
拙筆向ハ頃業行の航西日記続稀の條と
事ハ似たるも亦奇遇とべし

西洋道中膝栗毛拾編下ろ

發行書肆

心齋橋通南久宝寺町　伊丹屋善兵衛
同　北久宝寺町　河内屋源七
同　北久太郎町　河内屋喜兵衛
名古屋本町三丁目　菱屋藤兵衛
同　八丁目　美屋平兵衛
日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　二丁目　山城屋佐兵衛
同　小林新兵衛
同　芝神明前　岡田屋嘉七
同　横山町三丁目　和泉屋市兵衛
浅草茅町二丁目　和泉屋金右衛門
本石町二丁目　須原屋伊八

椀屋喜兵衛